



資料4

自然再生の目標について

十勝川水系自然再生検討会（第2回） 令和5年6月15日

北海道開発の長期ビジョン

第8期北海道総合開発計画 「世界水準の価値創造空間」の形成



人口減少時代にあっても、「食」「観光」が戦略的産業
農林水産業、観光等を担う

[生産空間]を支え[世界の北海道]を目指す

食料供給基地
としての持続
的発展

「観光先進国」実現を
リードする世界水準の
観光地の形成

社会や時代の要請を踏まえ 着実に計画を推進

食と観光を担う「生産空間」を支える取組

長期ビジョン

地域の豊かな暮らしを支える
十勝川流域

十勝川流域の価値を生み出す地域構造

施策イメージ

食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展

世界トップクラスの観光地の形成

地球温暖化対策を先導する活力ある脱炭素社会の実現

多様で豊かな地域社会の形成

豊かな自然と共生する持続可能な社会の形成

生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

地域の豊かな暮らしを支える十勝川流域

■地域経済の発展

食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展



世界トップクラスの観光地の形成



地球温暖化対策を先導する活力ある脱炭素社会の実現



河畔林による二酸化炭素の吸収



木質バイオマス化等エネルギー活用への寄与

十勝川流域の価値を生み出す地域構造

■地域社会の発展

多様で豊かな地域社会の形成



生産空間の暮らしを支える中心市街地の形成
(河川と都市整備の連携)



協働による川づくりの体制づくり



かわとまちを活かした賑わいの場の創出



キャリア教育、次世代への継承の体制づくり

■自然環境の回復

生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり



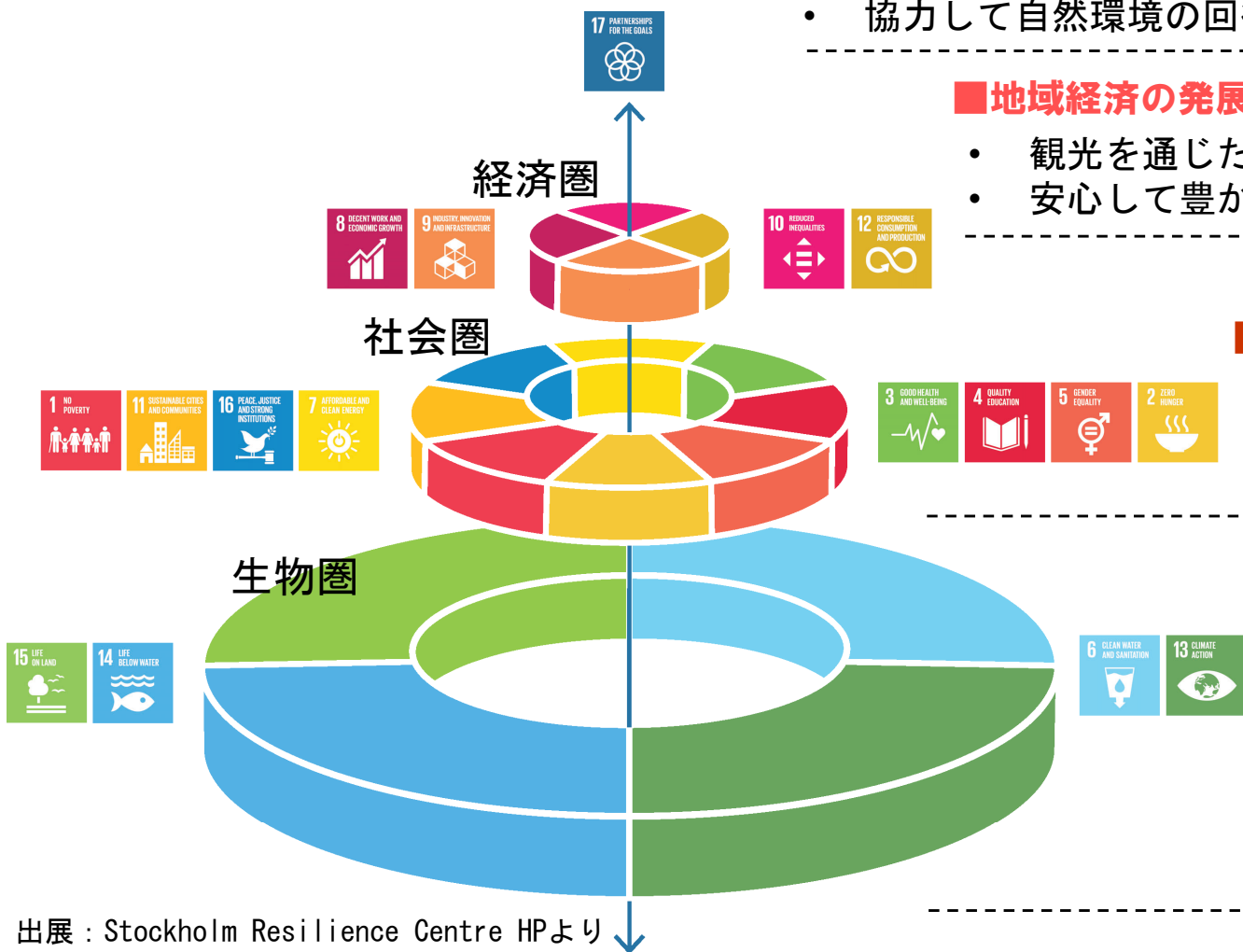
生物種の減少傾向を増加傾向に
転ずる=ネイチャーポジティブの実現



豊かな自然と共生する持続可能な社会の形成

- SDGsの考え方によると、自然環境・社会・経済は相互に関係性を持ち、社会・経済は自然環境によって支えられている。
- 自然再生の取組を推進することによって自然環境を回復させ、十勝の豊かな社会・経済の基盤づくりに貢献する。

SDGsウェディングケーキモデル



出展：Stockholm Resilience Centre HPより

■協力による目標達成

- ・ 協力して自然環境の回復、地域社会・経済の発展に取組み実現する。

■地域経済の発展

- ・ 観光を通じた地域経済の発展。
- ・ 安心して豊かな暮らしを続けることができるまちづくり

協力して
実現する

■地域社会の発展

- ・ 自然環境や食を強みとした観光客の誘致。
- ・ 宿泊・観光施設、運輸・交通、飲食、土産、食料生産等、様々な産業が活性化。

経済を
支える

■自然環境の回復

- ・ 十勝川流域の自然環境は、流域の開発や、河川の改修等によって変化してきた。
- ・ 自然再生の取組を推進することによって自然環境を回復させ、十勝の豊かな社会・経済の基盤づくりに貢献する。

社会を
支える

- ・ SDGsは17の目標から構成されており、上図は目標の相互の関係性を示したモデルである。
- ・ モデルはSDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう！」を頂点に、3階層「経済圏」「社会圏」「生物圏」で構成されている。
- ・ 「経済」の発展は生活や教育等の社会条件から成り立ち、「社会圏」は「生物圏」つまり自然環境に支えられていることを意味する。

十勝川流域は、開拓の歴史の中で大きく発展した
流域の樹林や湿地が大きく減少するとともに、河川の湿地やワンド、礫河原等の生息場が減少した

治水を確実に
実施

↓
個体数が減少し、流域から絶滅する種が生じてしまう懸念が増大している

↓
流域に住む人々の安全や暮らしに影響を生じない範囲で、失われた生息場を回復する

拠点整備、治水事業を上手に
活用して自然環境を再生

生物種の減少傾向を増加傾向に転ずる＝ネイチャーポジティブの実現が急務

限られた条件の中で実現するため水系と流域で連携

流域の自然環境の骨格となる水系の質の向上

○水系の質の向上

- ・ 湿地環境の保全・再生
- ・ ワンド・水際環境の保全・再生
- ・ 礫河原の保全・再生
- ・ 霞堤の保全

○ネットワーク化による機能の向上

- ・ 魚類移動の連続性確保
- ・ 樹林・河畔林の連続性確保
- ・ 中小支川合流点部の多様性と連続性の向上

流域の残存環境の保全や失われた樹林地や湿地の再生

○流域における生息場の拡大

- ・ 流域樹林地の保全・再生
→水と緑のネットワークの展開など
- ・ 流域湿地の保全・再生
→残存湖沼・湿地の保全、未利用地の湿地
再生など

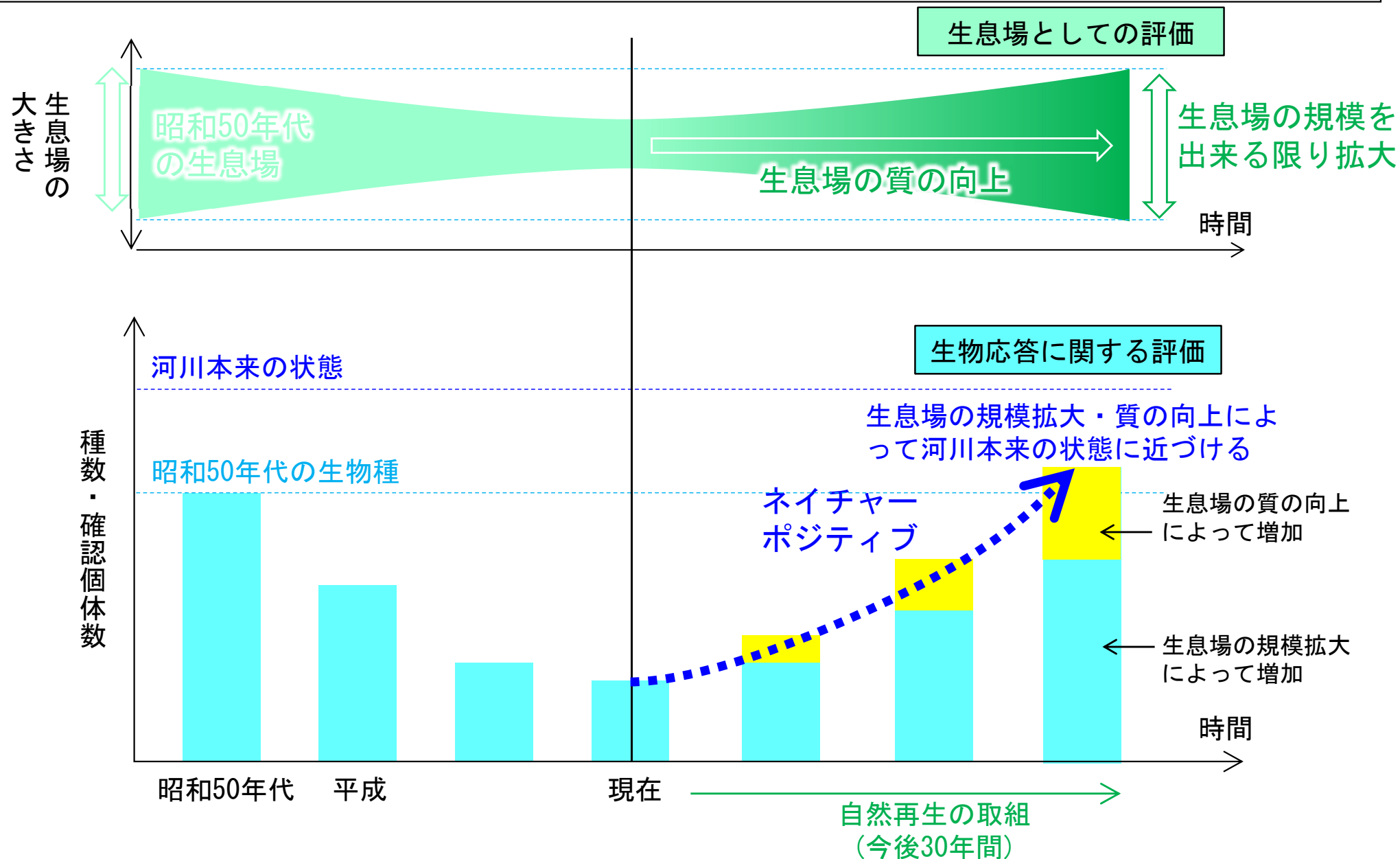
○流域における取り組みの支援

- ・ 生態系ポテンシャルマップで湿地保全・再生の促進

再生する環境を減災・防災のためのグリーンインフラとして活用

【目指す姿】生態系ネットワークの実現

- 減少した生息場の大きさを回復する。その際、生息場としての質を高めるための形状等を工夫する。
- これによって、減少した生物の種数や確認個体数の回復（ネイチャーポジティブ）を図る。



水系の生息場および生息状況回復の評価

○生態系の評価

- ・ 生息場の回復規模の進捗
- ・ 生物の種数や個体数・確認頻度の増加
- ・ 生息場の再生度合いに対する生物指標による評価

【湿地環境の再生(指標例)】

十勝川中・下流：イゾホケドシヨウ, イヨノマガシ, チュウヒ等

【ワンド・水際環境の創出(指標例)】

十勝川中・下流：イゾホケドシヨウ, イヨノウキクシ等

利別川：ヤウゲイ, イヨノヒトリガモ等

音更川：ヤウゲイ, イヨノカウ, クサギ等

【礫河原の再生(指標例)】

十勝川上流：ハカジカノコトドリ, セキレイ等

利別川：ハカジカノイカルドリ等

○社会的な評価

- ・ 社会的な認知度に基づく指標による評価
 - 温暖化緩和効果（炭素固定）
 - サケ稚魚の降海時生息場確保
 - 流木捕捉効果
 - サケ科魚類の産卵場確保
 - 水質、景観 など

流域における評価

○生態系の評価

- ・ 流域における生物種の増減（地域連携によるモニタリング手法を検討）
- ・ 多様度指数
- ・ 相補性評価 など

※様々な評価方法を検討して、流域評価に最適な手法を構築

○社会的な評価

- ・ 施策毎に設定する評価指標（KPI）の設定（例）

- ネイチャーツーリズムの実施数・参加者数
- 環境教育等の活用事例数の推移
- 自然環境に関する関心度の推移
- カーボンニュートラルの取組事例数の推移 など

ネットワークの構築における評価

- ・ 魚類の生息範囲の拡大
 - 回遊魚の遡上・移動範囲
- ・ 樹林・河畔林の連続性及び樹種構成の多様度
 - 本来の林分構成、連続性

目的

自然環境を回復させ、十勝の豊かな社会・経済の基盤づくりに貢献する



自然再生の目指す姿

ネイチャーポジティブを通して
十勝川流域の
生態系ネットワーク形成を目指す



自然再生の目標

- 減少した種の分布・個体数回復
- 生物多様性を回復



多様性と連続性を基調とした持続的な川づくり

治水対策と合わせた
生息場の回復

河川上下流、
中小河川、
流域との
連続性を確保

魚類移動
連続性の
確保

樹林・
河畔林の
連続性確保

中小支川

湿地環境
の再生

ワンド・
水際環境
の創出

礫河原
の再生

霞堤の
環境保全・
活用

中小支川

中小河川や
流域との
連続性を確保

本川・主要支川

生物の
多様性を回復

- 湿地環境、ワンド・水際環境、礫河原再生により、河川の多様性を回復する。
- 霞堤の環境保全・活用、樹林・河畔林の連続性確保により、河川の多様性の回復とともに、中小河川や流域との連続性を確保する。
- 魚類移動連続性の確保により、上下流や中小河川との連続性を確保する。



湿地



ワンド・水際



礫河原

十勝川水系河川整備計画の推進

平成28年8月洪水による被害



気候変動の影響



流域治水の必要

治水対策の実施

札内川自然再生に関する取組の推進



生態系ネットワークの必要

持続的で魅力的な地域づくりの必要



河川管理者による治水対策と合わせた湿地環境等の整備、魚類移動連続性、霞堤活用

十勝川水系自然再生計画の推進



地域による緑のネットワーク整備・保全、等

多様性と連続性を基調とした持続的な川づくり
生態系ネットワークの形成等
地域固有種等の回復 ネイチャーポジティブの実現
波及効果



エコツーリズム



観光地域づくり



〔自転車観光〕
ナショナルコースとかぶち400を活用し流域観光の実現

グリーンインフラの取組へ昇華させ、SDGsの目標達成にも寄与